



ラボの紹介



帝京大学



1. 調査研究の概要



テーマ

子どもの視点と関係性を広げるICTを活用した未来創造プロジェクト
ー心理社会的観点に基づく子ども理解と支援のあり方の検証ー

検証内容

ICTを活用しながら、子どもの興味・関心を引き出すプロジェクト(テーマ:未来創造)を実施し、子どもの視点と関係性を広げる手法を検証

対象

小学3年生～中学3年生

実施時期

R7年10月～12月(8回)

主な実施場所

レンタルスペース、植物園、科学館

活動内容

子ども一人ひとりに学生サポーター
が伴走する形式で、ICTを活用して未
来のイメージを創造するなど、子ども
の興味・関心を引き出す取組を実施

活動内容

第1回	未来を創造しよう!①	折り紙、粘土、絵の具等を用いた自由工作・お絵描きを行う
第2回	自然に触れる①	未来の庭を想像し、寄せ植えを行う
第3回	自然に触れる②	植物を観察・命名し、撮影した写真で図鑑を作る
第4回	未来を創造しよう!②	AI(注1)を活用して、今の自分、10年後の自分のイラストで表現する
第5回	創造する①	レゴ®ブロック(注2)を活用して、住みたい部屋・家を作る
第6回	創造する②	プラネタリウムを鑑賞し、感想を共有する
第7回	未来を創造しよう!③	AI(注1)を活用して、「100年後の未来都市(東京)」の画像を作る
第8回	発表会 未来都市に行こう!	各自の「100年後の未来都市(東京)」を共有する

注1:使用したAIアプリには13歳未満の子供の使用制限があるため、子供の意図を汲んで、学生サポーター等がAIに力を入れる運用としました。

注2:本資料は、LEGO®/レゴ®の商標所有者であるレゴグループの「フェアプレイポリシー(<https://www.lego.com/ja-jp/legal/notices-and-policies/fair-play>)」に則り作成していますが、レゴグループの承認・許可・スポンサー契約を得て作成しているものではありません。

2. 調査研究活動の様子(1)



第1回:未来を創造しよう!①



自由工作・お絵描きをしている様子

第2回:自然に触れる①



寄せ植えをしている様子

第3回:自然に触れる②



植物園で植物を撮影・観察している様子

第4回:未来を創造しよう!②



AIを活用し、10年後の自分のイラスト画像を生成する様子

2. 調査研究活動の様子(2)



第5回:創造する①



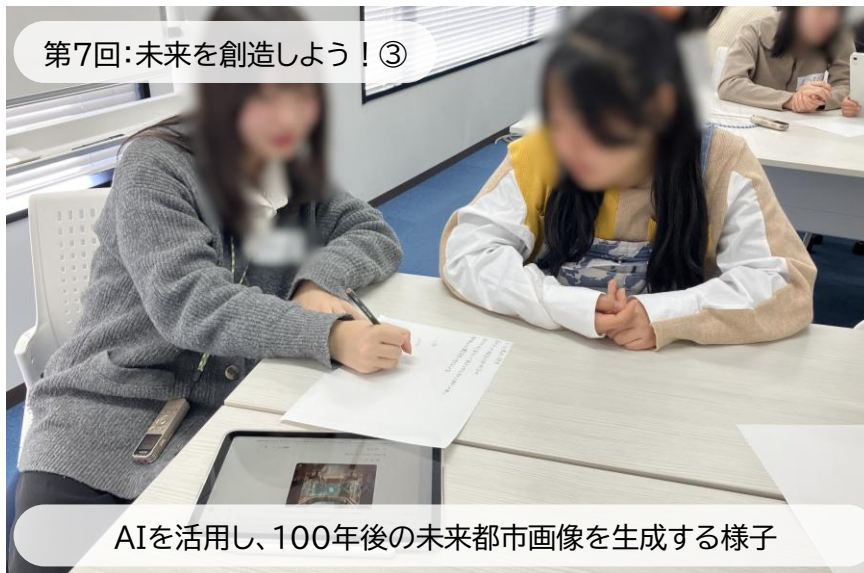
レゴ®ブロックで「住みたい家」を作る様子

第6回:創造する②



プラネタリウムでの様子

第7回:未来を創造しよう! ③



AIを活用し、100年後の未来都市画像を生成する様子

第8回:発表会 未来都市に行こう!



100年後の未来都市をパートナーの大学生と共に発表する様子

3. 調査研究活動の関係者の声



参加児童生徒の声

- 初めて会う人と話すのが苦手だったが、今回の活動を通じて、知らない人とも話しやすくなった。
- レゴ®ブロックを使って「自分の住みたい家」を作る活動が楽しかった。
- 大学生がさまざまな話題を振ってくれるなど、親しみを持って接してくれたことが嬉しかった。そのおかげで、緊張せず普段の自分のまま話すことができた。

協力フリースクールスタッフの声

- 回を重ねるごとに、自分の言葉で意思表示を行える様になる姿が見られた。
- 普段は工作やAI等の活動に関心を示しているが、自然と触れ合う活動においても積極的に楽しむ様子が見られ、フリースクールにおいても同様の体験活動を取り入れる意義を感じた。
- 人に慣れるまで時間を要する子どもが、2回目の活動でパートナーの大学生と打ち解けることができおり、大きな変化が見られた。

ラボメンバーの声

- スモールステップで子どもに寄り添い、関係性を広げながら参加を促進してきたことで、交流や成長が着実に見られた。
- ICT活用と学生の寄り添いにより、興味の薄かった子どもが自ら関心を高め積極的に取り組む姿が見られた。
- 多様な活動への興味が懸念していたが、子どもは毎回満足していた。活動内容だけでなく、「誰とどのように行うか」が重要だと気づいた。